

平成27年度事務事業評価シート

取組みコード 22231

区分	事務事業	担当課	環境課	作成日	平成27年5月15日	
事業名	し尿処理施設維持管理経費		開始年度	昭和61年度	予算科目	4.2.3.2.1

1 事業の概要

総合計画での位置づけ	
部	第2部 安全で安心して暮らせるまちづくり
章	第2章 総合的な環境対策
節	第2節 廃棄物対策と資源リサイクルの推進
基本施策	3 効率的なし尿処理
取組みの基本方向	公共下水道の普及による収集量の減少を踏まえた効率的な処理をはかります。
根拠法令等	愛川町立衛生プラント条例、廃棄物の処理及び清掃に関する法律
目的 (誰・何を対象に、何のために)	し尿・浄化槽汚泥・家庭雑排水を処理するため、し尿処理施設(衛生プラント)を適切な状態に維持管理する。
内容・方法 (何を行っているのか)	運転用の薬品・消耗品の購入、施設の運転に必要な設備の修繕・工事、各種法令に基づく測定業務の委託、施設を管理している職員では行えないが、施設の維持に必要な業務の委託などを行う。

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標	指標名	平成21年度	平成28年度				
	『廃棄物対策と資源リサイクルの推進』について「満足」と感じる住民の割合	47.1%	52.0%				
(A) 総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果	し尿処理施設(衛生プラント)の円滑な稼働						
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度(平成24年度)	平成25年度	平成26年度	平成27年度
衛生プラントの平日の稼働率	増	本事業の目的がし尿処理施設の適切な状態に維持管理することにあるため。	計画値	/	1.0	1.0	1.0
			実績値	1.0	1.0	1.0	
			達成度※自動計算	/	100.0	100.0	0.0
(B) 成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動	し尿処理施設(衛生プラント)の維持・管理						
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目	/	平成25年度	平成26年度	平成27年度
衛生プラント内設備の定期的な修繕	増	施設の状態を維持するために必要な消耗品の交換修繕や機器の調整(脱臭設備・計測機器)	計画値	/	2.0	2.0	2.0
			実績値	/	2.0	2.0	
			達成度※自動計算	/	100.0	100.0	0.0

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

(E) 平均人件費(円/年) 8,300,000

年度	基準年度(決算) (平成24年度)	平成25年度(決算)	平成26年度(決算見込)	平成27年度(予算)
(A) 事業費(円)	31,022,074	34,477,878	38,753,643	34,480,000
(B) 概算職員数(人)	2,000	2,000	2,000	2,000
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算	16,600,000	16,600,000	16,600,000	16,600,000
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算	47,622,074	51,077,878	55,353,643	51,080,000
単位当たりコスト ※自動計算	47,622,074.0	51,077,878.0	55,353,643.0	
財源内訳(円)	特定財源			
	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	13,172,360	12,682,910	12,391,085
一般財源 ※自動計算	34,449,714	38,394,968	42,962,558	38,505,000

4 事業の項目別評価(分析)

項目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である	○	A
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない	○	
	国や県において同類種の事業が実施されていない	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの変化がない	○	
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている	○	
	受益に応じた負担は適正である	○	
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である	○	
	町民の日常生活に必要不可欠な事業である	○	
上記のいずれにも当てはまらない			
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成26年度の目標を達成している	○	A
	基準年度と比較して成果が向上している	○	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用増、成果ダウン	C
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	直接的	A
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		改善すべき点がある	

5 特記事項

し尿・浄化槽汚泥・家庭雑排水の処理の利用者からし尿収集手数料を徴収している。

6 自己評価(担当課)

評価結果	○ 現状維持	○ 拡充	● 改善	○ 縮小	○ 再構築	○ 廃止
理由	し尿処理施設は住民生活に直結しているため不可欠であるが、基準年度に比べ、費用が増加しているため					
今後の方向性	施設の老朽化が進んでおり、修繕・工事の必要な箇所が多岐にわたっているが、施設運転業務の委託なども含めて検討し、全体的な費用の増大については抑制を図りたい。					

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	○ 現状維持	○ 拡充	● 改善	○ 縮小	○ 再構築	○ 廃止
今後の方向性に係る意見等	所管課の方向性のとおり					

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	○ 現状維持	○ 拡充	○ 改善	○ 縮小	○ 再構築	○ 廃止
今後の方向性に係る意見等	/					

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

現在施設運転を正規職員と臨時職員の2名で行っているが、平成27年度末で両名が退職するため、平成28年度から施設運転業務を民間に委託する。
これにより正規職員を2名配置するよりも経費の削減が図られる見込みとなる。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	○ 現状維持	○ 拡充	● 改善	○ 縮小	○ 再構築	○ 廃止
理由・改善方針	施設運転業務の民間委託に向けた検討を進め、可能であれば平成28年度から業務委託を行う。					